

特別活動

特別活動においては、活動全体を通して、自治的能力や積極的に社会参画する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見だし、話し合っ合意形成したり、役割分担して協力したりするなどして解決する活動の充実を図ることが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

特別活動における「内容のまとめり」は、学習指導要領の内容に基づき、次のように示されています。

- 学級活動：
 - (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
 - (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 児童会活動
- クラブ活動
- 学校行事：
 - (1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、
 - (3) 健康安全・体育的行事、
 - (4) 遠足・集団宿泊的行事、
 - (5) 勤労生産・奉仕的行事

◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

- ① 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、「改善等通知」の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定します。
※「改善等通知」の例示は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」(別紙4 31ページ)を参照してください。
- ② 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示されている「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。
- ③ 「観点ごとのポイント」を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

○ 「知識・技能」のポイント

- ・ 話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。
- ・ 文末を「～を理解している、～を身に付けている」とします。

○ 「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。
- ・ 文末を「～している」とします。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。
- ・ 文末を「～しようとしている」とします。

【「学級活動(1)」の内容のまとめりごとの評価規準(例)】

〔第5学年及び第6学年の例〕

よりよい生活を楽しむための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意味を理解している。合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを發揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

◆ 特別活動における学習評価の工夫

◇ 多面的・総合的な評価の工夫

特別活動においては、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるよう、評価を進めるため、活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

児童一人一人を評価する方法としては、教師による観察が中心となりますが、チェックリストや児童自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価するようにします。

特に、児童が活動に「見通しをもって取り組み、活動を振り返って次の課題解決につなげたり、改善したりする」等、自主的、実践的に取り組むことができるようにするために、児童の学習活動として、自己評価や相互評価を行うことも多いことから、観察による教師の評価と併せて、児童自身による評価を参考にすることも考えられます。

また、児童一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、児童のよりよい姿が見られた際には、随時、当該児童に伝えたり、学級や学年、学校全体に紹介したりすることが考えられます。

◇ 評価機会の工夫

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図るものであることから、すべての評価の観点について、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要があります。

◆ 学習評価に関する事例

1 議題

「がんばったね集会をしよう」

2 内容のまとめ

第5学年 「学級活動『(1)学級や学校における生活づくりへの参画』」

3 目標

1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」をするために、集会の内容を考えることができるようにする。

4 評価規準

※前ページ【「学級活動(1)」の内容のまとめりごとの評価規準(例)】を参照

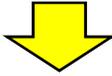
5 指導と評価の計画

① 事前の活動計画

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 () 業間休み	・提案ポストの議題案を確認し、選定する。 (計画委員会)	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	◎がんばったね集会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈学級会ノート〉 ◎友達のがんばりを認め合うことができる集会の内容を学級会ノートに書いている。 【知識・技能】 〈観察・学級会ノート〉
○月○日 () 帰りの会	・議題を決定する。 (学級全員)	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。	
○月○日 () 昼休み	・活動計画を作成する。 (提案理由、話し合いのめあて、話し合うこと、決まっていること等を確認する) ・学級会の進行の仕方を確認する。 ・学級活動コーナーに掲示する。(計画委員会)	・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を「決まっていること」として教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるように、提案理由をしっかりと深めるようにする。	
○月○日 () 帰りの会	・学級会ノートに自分の考えを記入する。 (学級全員)	・話し合うことや決まっていることが、共通理解できるように必要に応じて助言する。 ・提案理由を踏まえた自分の考えを記入できるようにする。	
○月○日 () 昼休み	・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。 (計画委員会)	・出された意見から話し合いの見通しがもてるように助言し、必要に応じて短冊に記入する。 ・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いの意欲を高める。	

【POINT】
「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、実践の様子から、児童が自分のよさを生かしながら、自分の役割に取り組んだり、友達と協働して取り組んだりしながら活動している様子を見取ります。

【POINT】
学級活動(1)の評価については、話し合いのめあてや提案理由に沿って考え、発表し合っているかなど、児童の活動の様子を観察して見取ることが中心となりますが、学級会ノートの記述も評価の参考にすることができます。



第12回 学級会ノート ○月 ○日 () ○校時
5年 2組 番名前 ○○○ ○○○

議題	5年生ががんばったね集会をしよう
提案理由	5年2組のみんなで4月からがんばってきました。1年間のがんばりをみんなで認め合いながら楽しめる会をすることでさらにみんなが仲良くなり、これからはがんばろうという気持ちになると思って提案しました。
決まっている	日時・・・月・日の 時間日
話し合うこと	自分の意見 (理由もしっかり書こう)
(2) がんばりを認め合う工夫はありますか。	意見 音楽会で歌った曲を歌う 理由 音楽会に向けてたくさん練習した思い出の曲をみんなで歌えは、みんなのがんばりを思い出することができるから。
(3)	いばん フォト ロケーション

【POINT】
「知識・技能」の評価の例として、本児童については、提案理由の「がんばりを認め合う」という活動の意義を理解し、その達成に向けて意見を考えている様子から、「十分満足できる状況」であると考えられます。

【学級会ノートの例】

